

ご寄付のお願い

次代を担う子どもたちのために、皆さまのご支援をお願いいたします。

イオンワンパーセントクラブでは、子どもたちの教育や国際交流、地域文化の保全などの活動に取り組んでいます。

今後、私たちの活動内容をさらに充実させていくために、皆さまのご理解とご賛同をいただけるようでしたら、ぜひご支援の程よろしくお願い申し上げます。

ご寄付の方法

クレジットカード
決済

WAON POINT
利用

銀行振込

寄付受付画面にお進みいただき、ご寄付の方法をお選びください。

<https://aeon1p.or.jp/1p/about/donation/>



ワンパーセント
公益財団法人 **イオン1%クラブ**

〒261-8515 千葉県美浜区中瀬1-5-1

TEL:043-212-6023 FAX:043-212-6461

<https://aeon1p.or.jp/1p/>

活動の詳細はホームページへ



公益財団法人
ワンパーセント
イオン1%クラブ
概要書

笑顔あふれる未来をつくる。

「お客さまからいただいた利益を社会のために役立てる」という想いのもと、

環境・社会貢献活動に取り組んでいます。

子どもたちの 健全な育成

環境・社会をテーマに、子どもたちが社会的なルールを学びながら、身近な地域の問題を主体的に捉え、考える力を育てます。

諸外国との 友好親善

学生たちに国際的な文化・人材交流の機会を提供し、相互理解を深めることで日本と諸外国との友好親善を深めます。また、アジアの大学生に対する奨学金給付など、グローバル人材の育成を支援します。

地域の 発展への貢献

地域に根ざし、次代に引き継ぐべき伝統行事や文化の継承を支援するとともに、地域社会が抱える諸問題の解決に取り組みます。

災害復興支援

国内外で発生した災害により被災した方々が日常生活を一日でも早く取り戻せるよう、災害の発生に際しいち早く支援金や支援物資をお届けするとともに、被災地の復旧・復興にむけた支援活動を続けています。

目次

ご挨拶 03

設立の経緯 04

子どもたちの健全な育成

イオン チアーズクラブ 05

中学生作文コンクール 09

イオン エコワングランプリ 11

イオン ユニセフ
セーフウォーターキャンペーン 13

諸外国との友好親善

ティーンエイジ アンバサダー 15

アジアユースリーダーズ 17

イオン スカラシップ 19

地域の発展への貢献

ふるさと未来支援 21

イオン すくすくラボ 22

災害復興支援

災害復興支援 23

2025年4月～2026年3月事業活動予定 25

参加者の声 26

イオンワンパーセントクラブのあゆみ 27

理事・監事・評議員 一覧 28

2025年度 寄付・協賛企業一覧 29

ご挨拶

このたび、イオンワンパーセントクラブ理事長に就任いたしました渡邊 廣之でございます。日頃より、当財団の活動に、ご理解とご支援をいただいております皆さまに感謝申し上げます。

イオンワンパーセントクラブは、イオングループの基本理念を具体的な行動に移し、社会的責任を果たすことを目的とし1990年に設立されました。お客さまにイオングループをご利用いただき生まれた税引き前利益の1%相当額をもとに、「子どもたちの健全な育成」、「諸外国との友好親善」、「地域の発展への貢献」、「災害復興支援」を主な事業領域として、地域や国境を越えて環境・社会貢献活動に取り組んでまいり、本年、設立35周年の節目の年を迎えました。

代表的な活動の一つである、アジア各国の大学生を対象に、将来日本と母国の懸け橋として活躍してほしいとの願いのもと実施している奨学金制度「イオンスカラシップ」が20周年を迎えます。これまでに約1万人の奨学生が世界に羽ばたいています。本年は、20周年を機に、日本人の大学生へも給付対象を拡大し、グローバルに活躍する人材育成を支援してまいります。

このように35年の歳月にわたり築いてきた事業参加者とのネットワークを最大限に活用しつつ、地域、国際社会と連携し、お客さまをはじめとする多様なステークホルダーの皆さまにもご参画いただき、事業活動をさらに発展させ、笑顔あふれる未来を目指し活動してまいります。

公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

理事長

渡邊 廣之



設立の経緯

企業による社会貢献活動が、日本において未だ本格化していなかった1990年、ジャスコ株式会社代表取締役会長（当時）岡田卓也の提唱により、「イオングループ1%（ワンパーセント）クラブ」が設立されました。

ジャスコ誕生20周年を機に、「絶えず革新し続ける企業集団」として、「『平和』を追求し、『人間』を尊重し、『地域』に貢献する」という新生イオングループの基本理念の具現化を図り、社会的責任を果たすことがその趣旨でした。

社会貢献活動の原点は、イオンの前身のひとつである岡田屋の時代に遡ります。1958年、「風樹会」という交通遺児育英会を組織し、5人の高校生へ奨学金として給付したのが始まりです。この活動は後に提携した企業にも受け継がれ、できることから始めるという企業風土を醸成するきっかけとなりました。

各企業の業績にかかわらず継続的に社会貢献活動を行うため、グループ主要企業各社が税引き前利益の1%をイオンワンパーセントクラブへ拠出し、それをもとにグループを挙げて環境・社会貢献活動に取り組んでいます。



設立総会（1990年8月1日）



イオン チアーズクラブ

小中学生

実際に見て、触れて、考える。



ひまわり畑の散策(宮城大学 チアーズ農園)

イオン チアーズクラブは、小学生を中心に、環境や社会貢献活動に興味・関心を持ち、考える力を育む場として、全国のイオングループの店舗等を拠点に、「環境・社会」に関する体験学習を行っています。2024年度は448クラブが活動を行い、動植物の調査など、さまざまな体験活動を行いました。



クラブ・メンバー数

448クラブ 6,061人



累計メンバー数

112,340人

※2024年度末時点



苗の定植や受粉作業を行っ
たいちごの収穫
(埼玉県越谷市)



メンバーで力を合わせ
地引網体験
(千葉県富津市)



苗から育てた
さつまいもの収穫
(宮城県仙台市)



地元の産業を学ぶため
りんご狩り体験
(群馬県みなかみ町)

チアーズ農園

子どもたちが種まきや苗植え、除草などの管理作業、収穫体験をすることで、農作物を作ることの大変さと喜びを実感し、体系的に農業について学ぶことを目的に、現在3か所で開園しています。

2025年5月開園!



三木里脇チアーズ農園(兵庫県三木市)

過去に開園したチアーズ農園

2023年4月

茨城県牛久市
「牛久チアーズ農園」開園

2024年5月

宮城県仙台市
「宮城大学チアーズ農園」開園



小松菜の収穫



レタスの種類や収穫方法についてレクチャーを受ける

イオン チアーズクラブ活動例

わくわくキャッシュレス体験

～たのしくまなぶ お金のミライ～

イオンフィナンシャルサービス株式会社ご協力のもと、金融教育イベントを開催しました。お金の歴史クイズや、1億円分の現金と同じ重さのケースを持ち上げて重さを感じることで、お金の成り立ちや現金を持ち運ぶ大変さを体験しました。また、顔認証決済などでキャッシュレス決済の利便性を体感しました。



もしものときの防災教育

イオンディライト株式会社ご協力のもと、火災時の対応やAEDを使用した救命・応急手当の方法を学びました。煙ハウスでは煙による視界の悪さを体験し火災時の避難方法や水消火器の使用方を学びました。AEDの操作体験では自動音声ガイドを聞きながら救命・応急手当を体験しました。



Tシャツのリサイクルによる服の循環 「サステナブルワークショップ」

株式会社OPAご協力のもと、衣料廃棄問題について楽しく学び考えるワークショップに参加しました。古くなったチアーズTシャツが、リサイクル工場に送られ、ノートやネームホルダーへ生まれ変わる動画を視聴し、リサイクルについて学びました。また、持ち寄った古着をリサイクルして作られたノートをデコレーションし、アップサイクルの体験をしました。



オーケストラ・リハーサルの見学・ 楽器演奏の体験

公益財団法人パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会ご協力のもと、パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌のアカデミー生との交流やオーケストラ・リハーサルの見学を実施しました。また、ヴァイオリンやトランペットなどの楽器演奏を体験しました。



壁新聞審査会

年度末に1年間の活動を振り返り、模造紙にまとめ、発表する「壁新聞審査会」を開催しています。メンバー同士が、協力し合いながら壁新聞を作成し、発表することで、メンバーの「考える力」を育みます。



南関東地区で最優秀賞を受賞した橋本イオンチアーズクラブ壁新聞

各地域で予選を通過したクラブが全国で13エリアに分かれて最終審査会に進出します。株式会社朝日学生新聞社や各自治体の方々に審査員としてご参加いただき、壁新聞の出来栄や発表内容について評価が行われます。入賞クラブは関東と北海道の2会場に分かれ8月に開催する全国大会に参加します。



橋本イオンチアーズクラブ壁新聞発表の様子

中学生作文コンクール

中学生

考えをまとめ、言葉で伝える。

中学生作文コンクールは、中学生が環境に関する社会問題をテーマに、自分自身の考えをまとめ、書く力を養うことを目的に、2003年より実施しています。2024年度は、「私にできる気候変動対策」というテーマで作文を募集し、7,512作品が寄せられました。11月には文部科学大臣賞をはじめとする受賞者の皆さんと、その保護者1名を東京都内で開催する表彰式と環境エコツアーにご招待しました。環境エコツアーでは気象科学館の見学や、グループワークでのSDGs啓発ポスター作成を通じて交流を深めながら、互いに学び合い、環境保全への意識を高めました。

2024年度応募数
7,512作品

累計応募数
32,635作品



表彰式にて審査員と受賞者による記念写真



2024年度より文部科学大臣賞を新設



審査員の方々と交流会



審査員の依田司さん(気象予報士)による特別講演会

環境エコツアー

表彰式の後、都内で開催された「環境エコツアー」で参加者は気象科学館（東京都港区）を訪れ、気象観測器に実際に触れることで気象に関する理解を深めたほか、緊急地震速報の仕組み等を学習しました。翌日には、スモールワールズ（東京都江東区）を訪問し、SDGsを啓発するポスター作成のグループワークを行い、意見交換を通じて環境保全や持続可能な未来への意識を高めました。



SDGsを啓発するポスターを作成

文部科学大臣賞受賞者による作文朗読

イオン エコワングランプリ 高校生

伝えたい、私が取り組むエコ活動。



最終審査会での発表の様子

イオン エコワングランプリは、地球の未来を想う高校生が日ごろ取り組んでいる環境保全や社会貢献のための活動を発表し合うコンテストです。他校の発表を聞くことで、新たな行動のきっかけをつかみ、表現力や発信力を向上させることを目的に、2012年より開催しています。2024年度の第13回イオン エコワングランプリでは、2次審査を通過した12校の学生が東京で行われた最終審査会に出場しました。日ごろの取り組みについて写真や動画を使って発表し、審査員からの質問に堂々と答えるなど自分たちの活動を大いにアピールしました。



2024年度応募校・件数

111校127件



累計応募件数

1,687件



表彰式にて審査員、来賓、受賞者による記念撮影



内閣総理大臣賞（研究・専門部門）受賞校の活動



懇親会で他校生徒、審査員らと交流



環境エコツアーでマイクロプラスチックを観察

ワークショップ

表彰式の後、第8回イオン エコワングランプリで内閣総理大臣賞を受賞した、落合真弘さんをお招きし、ワークショップを開催しました。落合さんは講演で若者の強みを語り、学生らを激励してくださいました。グループワークでは、身の回りの探究を通し、自身の探究力や観察力を試しました。参加者は学校の垣根を超え交流を深めることができました。



自己分析のワークを実施

イオン ユニセフ セーフウォーターキャンペーン

子どもたちに、安全な水を。

安全な水を供給した人数

カンボジア 472,924人

ミャンマー 82,985人

ラオス 85,000人

累計
640,909人

寄付によって設置された水道を使用する子どもたち

イオン ユニセフ セーフウォーターキャンペーンは、カンボジア等の子どもたちに安全な水を供給するため、全国から寄せられた募金と当財団からの拠出金を、公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて寄付しています。

給水施設の設置等により、遠方への水汲みに時間をとられ、学校の授業に参加できない子どもたちや、健康を害する恐れのある物質を含む地下水を生活用水として使う子どもたちを、教育・健康の両面でサポートしています。これまでカンボジア・ミャンマー・ラオスの約64万人に安全な水を供給しています。

2024年度寄付金額
4,715万円

累計寄付金額
6億4,411万円



右:ユニセフカンボジア事務所代表 ウィルパークス様
左:イオンワンパーセントクラブ 森美樹理事長(当時)

寄付金額

2010年 4,015万円	2018年 2,841万円
2012年 5,748万円	2019年 3,255万円
2013年 5,574万円	2020年 3,366万円
2014年 6,977万円	2021年 3,961万円
2015年 4,033万円	2022年 5,505万円
2016年 2,553万円	2023年 5,193万円
2017年 2,666万円	2024年 4,715万円



過疎部の家庭では安全に管理された水を得ることができません



安全な水を得るために、遠方まで毎日4~5回水汲みに行く姉妹

寄付金の使途例



浄水施設の建築・メンテナンス等



過疎部の家庭への配管・給水



技術者の教育



ティーンエイジ アンバサダー

高校生

アジアの国々をつなぐ、友好の輪



2024年度日本・中国ティーンエイジ アンバサダー

日本プログラム: 2024年7月15日(月)～7月20日(土)

中国プログラム: 2024年10月14日(月)～10月19日(土)

後援: 外務省 中華人民共和国駐日本国大使館

首相官邸にて岸田首相(当時)を表敬訪問

ティーンエイジ アンバサダーは、日本と海外の高校生が、互いの国を訪問し、国際的な相互理解と親交を深める交流プログラムです。文化や伝統、生活習慣の異なる同世代の若者たちが小さな大使(アンバサダー)となり、「表敬訪問活動」「交流活動」「歴史・文化活動」の3つの活動を通じて交流します。1990年より実施しており、これまで日本・イタリア・インドネシア・英国・オーストラリア・韓国・カンボジア・タイ・ドイツ・中国・フィリピン・ブラジル・ブルガリア・ベトナム・ペルー・マレーシア・ミャンマー・ラオスの18カ国の高校生が参加しています。

2024年度は中国の4校から40人、日本の4校から40人、計80人の高校生が参加しました。



2024年度参加人数

80人



累計参加人数

2,601人



在中国日本国大使館を表敬訪問

互いの国を訪問し、各国で3つの活動を行います

1 表敬訪問活動

母国を代表する小さな大使として、各国の政府や大使館などへ表敬訪問を行います。



中国大使館での歓迎会の様子

2 交流活動

学校での授業体験やホームステイなど、互いの国で相手のくらしに触れることで、友情を育みます。



中国のホームステイ先で食卓を囲む

3 歴史・文化活動

伝統文化体験やその国ならではの史跡・施設の見学などを通じ、互いの国の歴史と文化を学びます。



国会議事堂を見学し社会文化を学ぶ



中国外交部にて劉勁松 アジア司長を表敬訪問



中国の高校にて龍舞を体験



万里の長城を散策し歴史に触れる



アジア ユースリーダーズ

高校生

国境を越え、多様な価値観を学ぶ



2024年度 アジア ユースリーダーズ

2024年8月19日(月)～8月23日(金)

テーマ「将来のリーダーに必要な資質」

インドネシア、カンボジア、タイ、ラオス、
中国、日本、ベトナム、マレーシア、
計8カ国の高校生80名が参加

ディスカッションの様子

アジア ユースリーダーズは、アジア各国の高校生が、社会問題をテーマに視察や専門家によるレクチャーに基づき、英語を共通言語として議論を重ね、解決策を提案するプログラムです。高校生たちに、自分とは違う考え方や意見に対する理解を深め、視野を広げる場を提供し、次の世代を担うリーダーの育成を目的とします。これまで、日本・インドネシア・カンボジア・タイ・中国・ベトナム・マレーシア・ミャンマー・ラオスの9カ国より1,296人が参加しています。



2024年度参加人数

8カ国80人



累計参加人数

9カ国1,296人



開催国とテーマ

- | | |
|--------------------|--------------------------------------|
| 第1回 生物多様性 (ベトナム) | 第9回 食と健康 (インドネシア) |
| 第2回 持続可能な開発 (ベトナム) | 第10回 食と健康 (ベトナム) |
| 第3回 水と経済 (日本) | 第11回 コロナ禍に伴う学校教育上の課題と改善点・打開策 (オンライン) |
| 第4回 ゴミ問題 (インドネシア) | 第12回 食品ロス (オンライン) |
| 第5回 大気汚染 (ベトナム) | 第13回 食べ物から考えよう、環境のこと (オンライン) |
| 第6回 ゴミ問題 (中国) | 第14回 食品メーカーが取り組むべきCO2削減 (日本) |
| 第7回 水質問題 (タイ) | 第15回 将来のリーダーに必要な資質 (日本) |
| 第8回 食と健康 (日本) | |



審査員、来賓、参加者による記念撮影



成果発表会で1位を獲得したチーム



盆踊りを通し、日本の文化に触れる



イオン スカラシップ

大学生

日本と母国の架け橋となる

公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ
2024年度 イオン スカラシップ 修了式

イオン スカラシップ修了式での修了生と来賓による記念撮影



奨学生認定授与式(インドネシアの会場)

イオン スカラシップは、アジアの大学生を対象に、将来日本と母国の架け橋となり活躍してほしいとの願いのもと2006年より実施しています。国内では、奨学金を給付しているほか、奨学生同士の交流会や宿泊研修セミナー、ボランティア活動などの機会を提供しています。国外では、インドネシア、カンボジア、タイ、中国、ベトナム、ミャンマーの大学で学ぶ現地の奨学生に、毎年各国で奨学生認定証授与式を開催し、大学を超えた奨学生同士の交流の場や日本語スピーチコンテストなどの機会を提供しています。

2024年度給付人数
536人累計給付人数
9,357人

※2025年2月時点

2024年度奨学金給付国・人数

日本	69人	インドネシア	24人	カンボジア	23人	タイ	32人
中国	250人	ベトナム	98人	ミャンマー	40人		



将来の夢についてスピーチ(カンボジアの会場)



認定証授与式(日本国内の会場)

日本語スピーチコンテスト

日本語を学ぶアジアの大学生が、テーマに沿って自らの考えを日本語で発信するコンテストです。他の大学生とコンテストに出場することで、刺激を受け、切磋琢磨する機会を提供しています。2025年2月、「地球環境のために、今私たちにできること」をテーマに、277名の応募者の中から各国での審査を勝ち抜いた50名が来日し最終審査会に挑みました。



受賞者に賞状と記念品が贈られました

近野教育振興基金

2024年8月、山形県米沢市に所在する公益財団法人近野教育振興会より、同市の高校生を対象とする奨学生支援事業を継承しました。2025年度より対象者を山形県置賜地方に拡大し、未来を担う優秀な高校生を支援していきます。また、新たに置賜地方の大学生を対象とする奨学金の募集を開始します。

ふるさと未来支援

地域のくらしと伝統を、未来へつなぐ。



御陣乗太鼓(石川県輪島市)

ふるさと未来支援は、ふるさに受け継がれ、次の世代につなげるべき伝統文化、工芸技術の保存・継承と普及啓発に取り組む団体を支援し、その活動・行事が継続されることを目指しています。地域に引き継がれてきた行事、祭事、神事、芸能などの伝統文化や、陶芸、染織、漆芸などの工芸技術を対象とし、その保存・継承・普及啓発のための活動を自ら企画し実施している団体、あるいは参画している団体へ助成しています。



2024年度助成件数

66件



累計助成件数

914件



輪島塗



徳島阿波おどり

イオン すくすくラボ

地域の子育てを、サポートする。



イオンモール盛岡で子育てセミナーを開催(岩手県盛岡市)

イオン すくすくラボは、地域社会の持続的な発展を目指し、0歳から3歳の乳幼児のお子さまや未就学児とそのご家族を対象に、育児に関する深い知識を持つ講師によるセミナーやお悩み相談会等を行い、地域の子育て世代をサポートする活動です。

2024年度は新たに株式会社イオンファンタジーのオリジナルキャラクターである「ララちゃん」と乳幼児のお子さまが楽しめる様々な取り組みも実施いたしました。



2024年度開催数

6回



2024年度参加人数

438人



累計参加人数

10,630人



イオンファンタジーのララちゃんと触れ合うお子さま



講師による子育てセミナー



災害復興支援

被災地の復興と、さらなる発展を願って。



復元が進む首里城正殿(2024年11月)

災害復興支援は、国内外で発生した災害により被災した方々が日常の生活を一日でも早く取り戻せるよう、災害の発生に際しいち早く支援金や支援物資をお届けするとともに、被災地の復旧・復興にむけた支援活動を続けています。

首里城復興支援では、2019年10月に、世界遺産である首里城が火災により甚大な被害を受けたことに対して、2024年度までに5億1千万円の寄付を行いました。



2024年度支援金額

1億3,700万円



累計支援金額

約34億円

緊急災害復興支援

- 2024年9月 「令和6年台風第11号」
ベトナムへ5万USD(約723万円)
- 2024年10月 「令和6年能登半島豪雨」
石川県へ1,000万円
- 2025年2月 「大船渡山林火災」
岩手県大船渡市に1,000万円
- 2025年4月 「ミャンマー大地震」
ミャンマーへ1,000万円相当の支援物資



左:石川県商工労働部 部長酒井雅洋様(当時)
右:イオンワンパーセントクラブ
佐々木真理子事務局長

首里城復興支援

イオン チアーズクラブ 首里城復興支援ポスターコンクールや、復興状況をパネル等でお伝えする「首里城復興祈念展」を全国10か所で開催し、2026年の首里城正殿完成に向け、継続的な支援を行っています。



首里城復元の様子を見学するイオンチアーズクラブのメンバー



首里城復興祈念展の様子

イオン チアーズクラブ 首里城復興支援ポスターコンクール

子どもたちが「首里城」を描くことで復興を支援するとともに、歴史ある文化遺産について学ぶことを目的に実施しています。2024年度は首里城公園にて、首里城復興支援寄付金贈呈式と同時に、全国から寄せられた794の作品から選ばれた受賞作品の表彰式を行いました。子どもたちが描いた作品は、首里城復興祈念展で展示し、首里城復興への想いが強く伝わる色鮮やかな力作を全国の方々にご覧いただきました。



審査員の赤嶺雅先生と受賞者

2025年度(2025年4月～2026年3月)事業活動予定

参加者の声



子どもたちの健全な育成

■イオン チアーズクラブ

8月上旬	イオン チアーズクラブ全国大会
11月上旬	首里城復興支援 ポスターコンクール表彰式 首里城見学ツアー
1月-3月	壁新聞審査会

■イオン ユニセフ セーフウォーターキャンペーン

5月-6月	募金期間
8月	寄付金贈呈式

■近野教育振興基金

4月-5月	高校生奨学金募集期間
7月中旬	高校生奨学金交付式
8月上旬	大学生奨学金募集開始 高校生奨学生セミナー

■中学生作文コンクール

6月-9月上旬	募集期間
11月下旬	表彰式・環境エコツアー

■イオン エコワングランプリ

7月-8月	募集期間
12月中旬	最終審査会・表彰式・環境エコツアー



諸外国との友好親善の促進

■ティーンエイジ アンバサダー (中国)

7月中旬	招へい
10月下旬	派遣

■アジア ユースリーダーズ

8月中旬	カンボジアにて開催
------	-----------

■ティーンエイジ アンバサダー (マレーシア)

11月中旬	招へい
1月中旬	派遣

■イオン スカラシップ

6月下旬	認定証授与式
9月中旬	20周年記念イベント
11月上旬	フォローアップセミナー
11月-12月	認定証授与式 (アジア各国で開催)
2月下旬	修了式



地域社会の持続的発展

■イオン すくすくラボ

5月	浜松・旭川にて開催
8月	京都にて開催

※9月以降も5回開催予定

■ふるさと未来支援

秋頃	2026年度助成先募集期間
----	---------------

■イオン チアーズクラブ

チアーズクラブに参加するまで生活の中で自然と触れ合う機会がありませんでした。チアーズ農園での活動を通して、土を整え種をまき、心を込めて植物を育てる、その豊かさを感じました。恵みを与える自然をもっと大切にしようと思います。(小学生)

■イオン チアーズクラブ

チアーズクラブの活動に参加することで、自然と触れ合い、自分たちで考えて学ぶことを教えていただきました。活動中の子どもが、一生懸命に取り組んでいる姿を見て、成長したなと思う場面が多々あります。他校のメンバーとの交流、年上の子が年下の子の面倒をみるなど助け合う大切さも学べて、子どもたちも私もチアーズクラブに入会してよかったと思います。(保護者)

■ティーンエイジ アンバサダー (中国プログラム)

中国の方はみんなを喜ばせようとしてくれるホスピタリティの良さを感じました。そして、日本では他の国にはまねできない、丁寧さを改めて感じ、それが日本の良いところだと感じました。異なる文化を実際に見て、理解を深めることで、友好が促進され交流が活発になると思いました。(生徒)

■ティーンエイジ アンバサダー (中国プログラム)

生徒たち一人ひとりが文化の違いに向き合う大切さを感じられたことが彼らの今後にとって、またこのプログラムの目指す友好親善に対する、大きな収穫だと思います。自分自身で見る情報の大切さを実感できたと思います。(教員)

■首里城復興祈念展

首里城を実際に再建している宮大工の方と触れ合うことができ、楽しいだけでなく、とても勉強になる、貴重な体験をさせていただきました。火災が発生をする前に首里城を見に行ったことがあります。2026年完成した際にはまた見に行きたいです。(お客さま)

イオンワンパーセントクラブのあゆみ

1990年の設立以来、多くのみなさまのご協力のもと、
30年以上にわたり活動を続けてまいりました。
これからも笑顔あふれる未来を目指し、歩み続けます。



1990年「イオングループ1%クラブ」設立

1990	●「イオングループ1%クラブ」設立 ●「小さな大使」第1回開催(現:ティーンエイジアンバサダー)
1996	●環境庁(現:環境省)「こどもエコクラブ」活動支援開始
2000	●「学校建設支援事業」開始
2003	●「中学生作文コンクール」開始
2005	●「イオン こどもエコクラブ」から「イオン チアーズクラブ」に改称
2006	●「イオン スカラシップ」開始
2007	●「シハヌーク・イオン博物館」完成 ●「地域行事支援」開始(現:ふるさと未来支援)
2008	●「イオン すくすくラボ」開始 ●「小さな大使」を「ティーンエイジアンバサダー」に改称
2009	●「アジア大学生環境フォーラム」第1回開催(現:アジアユースリーダーズ)
2010	●「イオン ユニセフ セーフウォーターキャンペーン」開始
2011	●「東北支援」開始(～2021年まで)
2012	●「イオン エコワングランプリ」開始
2015	●「公益財団法人」へ移行(公益財団法人イオンワンパーセントクラブ)
2016	●「未来農業DAYs」開始(～2020年まで)
2019	●「首里城復興支援」開始
2024	●公益財団法人近野教育振興会より奨学金事業を承継
2025	●「イオン スカラシップ」日本人大学生へ対象を拡大

- 事業共通
- 子どもたちの健全な育成事業
- 諸外国との友好親善事業
- 地域の発展への貢献事業
- 災害復興支援事業

理事・監事・評議員 一覧

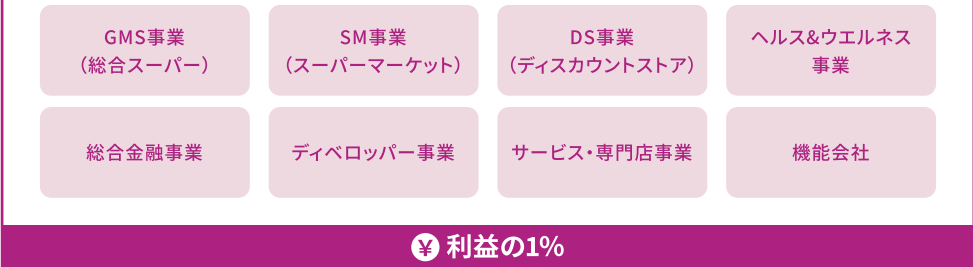
※氏名五十音順、2025年6月現在

理事長	現職
渡邊 廣之	イオン株式会社 執行役副社長 人事・生活圏推進担当 兼 リスクマネジメント管掌
理事	現職
池野 隆光	ウエルシアホールディングス株式会社 会長
大野 恒太郎	公益財団法人国際民商事法センター 理事長
鹿取 克章	公益財団法人日韓文化交流基金 理事長
小島 明	公益社団法人日本経済研究センター 参与
ジョン・ギヤスライト	株式会社ツリークライミングワールド 代表取締役
徳田 克己	筑波大学 名誉教授
西谷 義晴	元イオン株式会社 執行役
吉田 昭夫	イオン株式会社 取締役 兼 代表執行役社長
監事	現職
瀬戸 英雄	LM虎ノ門南法律事務所 弁護士
森 正勝	国際大学 特別顧問 名誉教授
若生 信弥	元イオン株式会社 執行役副社長
評議員	現職
岡田 元也	イオン株式会社 取締役 兼 代表執行役会長
柴田 英二	イオン株式会社 顧問
辻 善則	株式会社辻マネジメント研究所 所長
時岡 晤	元イオンマルシェ株式会社 代表取締役社長
藤崎 一郎	一般社団法人 日米協会 会長
村木 美貴	千葉大学大学院 工学研究院 教授
望月 晴文	東京中小企業投資育成株式会社 特別顧問
山下 昭典	イオン株式会社 顧問
横尾 博	元イオン株式会社 取締役会議長
渡辺 好明	新潟食料農業大学 名誉学長

2025年度 寄付・協賛企業一覧

イオン株式会社	イオンエンターテイメント株式会社
イオンフィナンシャルサービス株式会社	イオンタウン株式会社
イオンモール株式会社	オリジン東秀株式会社
ウエルシアホールディングス株式会社	イオン琉球株式会社
イオンディライト株式会社	イオン・リートマネジメント株式会社
マックスバリュ東海株式会社	株式会社光洋
イオン九州株式会社	イオン商品調達株式会社
まいばすけっと株式会社	イオントップバリュ株式会社
株式会社フジ	イオンマーケティング株式会社
ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス株式会社	イオンリカー株式会社
イオンビッグ株式会社	リフォームスタジオ株式会社
イオン北海道株式会社	株式会社イオンファンタジー
イオンアイビス株式会社	株式会社キャンドウ
株式会社ビッグ・エー	株式会社生活品質科学研究所
イオングローバルSCM株式会社	メガベトロ株式会社
イオンベット株式会社	

イオングループ各社が利益の1%を寄付しています。



ワンパーセント
イオン1%クラブ

寄付・協賛企業代表より

当社は、「何よりもお客さまの利益を優先しよう。」という企業理念のもと、静岡県・愛知県・三重県・岐阜県・滋賀県・神奈川県・山梨県の7県下に店舗を展開するスーパーマーケットチェーンです。それぞれの地域に根ざした「じもの」商品の販売や、地域のお客さまに美味しい食卓を提供することを通して、お客さまの健康的な生活や健康づくりに貢献する「ちゃんとごはん」の取り組みなど、地域社会にとって「なくてはならない店舗」の実現を目指し、地域密着経営を推進しています。

2024年4月には、サステナビリティ基本方針を制定し、主たる事業であるスーパーマーケットの事業拡大に努めるだけでなく、環境保全活動、社会貢献活動、従業員満足の向上などにも積極的に取り組み、事業活動とサステナビリティの融合を図っています。当社のサステナビリティ基本方針の考え方は、「想いをつなぎ、一途に『かたち』に。『笑顔』と『元氣』、『幸せ』あふれる地域を共創する」というもので、ブランドメッセージである「想いを形に、『おいしい』でつなげる。」を体現し続けることを目指しています。

このような考えのもと、当社はイオンワンパーセントクラブに利益額の一部を拠出し、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。特に「子どもたちの健全な育成」を支援する活動に力を入れており、「イオン ユニセフ セーフウォーターキャンペーン」などの店頭募金活動をはじめ、2024年度には、マックスバリュ グランド名西店にて「チアーズクラブ活動」をスタートし、「食」をテーマとしたさまざまな活動を通じて、子どもたちに環境や社会貢献についての学びの場を提供しています。

当社は、これからも、さまざまなステークホルダーの皆さまとともに「笑顔」と「元氣」、「幸せ」あふれる地域を共創し、持続可能な社会と当社グループの持続的な成長を両立する目標の実現に努めてまいります。

マックスバリュ東海株式会社 代表取締役社長

作道政昭



当社は、イオングループの中で九州地区におけるグループの中核企業として、総合スーパー事業やスーパーマーケット事業など九州7県と山口県に335店舗（※2025年6月現在）を展開しています。統合によるシナジーをチカラにスケールメリットを生かすとともに、改革を推進し、2022年に策定した当社のパーパス『私たちの「たからもの」九州をもっとー』を軸にすべてのステークホルダーの皆さまとともに成長し、より地域に密着した店舗作りや事業展開を目指しています。

また当社では「パーパス」と「マテリアリティ」を起点とした経営を実践し、人と企業の「相互成長」を実現することをサステナビリティ経営のあるべき姿として位置づけています。翌年には「環境」「社会」「ガバナンス」のそれぞれのタスクフォースのもと、マテリアリティの実行にあたってのアクションプランとKPIを策定しました。これからもそれらの達成に向けた活動を進めていきます。

このような考えのもと、当社はイオンワンパーセントクラブを通じて様々な社会貢献に協力しており、特に「たからもの」九州をこれからの未来へ継承していくために、次世代を担う子どもたちの育成にも努力しています。

2025年には行政との取り組みの中で、「食品残渣リサイクルループモデル」にかかわる「チアーズ農園」の開園に向け活動をスタートさせました。携わる子どもたちが食物の大切さと様々な循環を学び、同時に自分たちが暮らしている地域の皆さまと「つながり」を持ちながら成長していく姿を見守っていきたくと考えています。

これからも当社が大切にしている「つながり」を、イオンチアーズクラブをはじめすべてのステークホルダーの皆さまと共有できますよう、社会貢献活動に積極的に取り組んで参ります。

イオン九州株式会社 代表取締役社長

中川 伊 正

